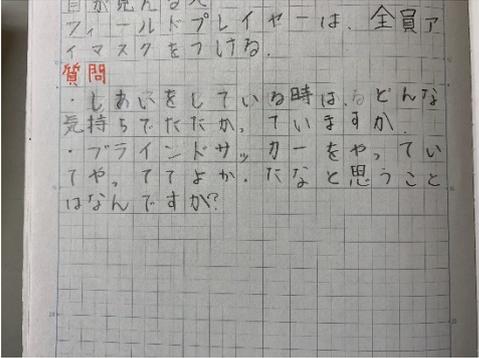
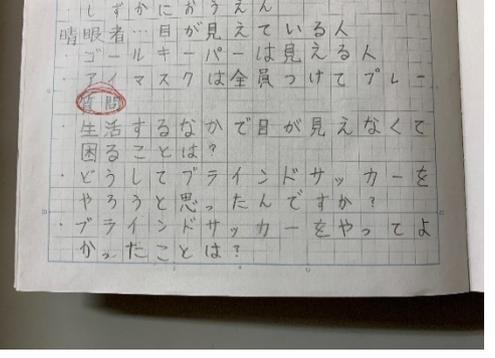


令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 鹿嶋市立鹿島小学校 】

| | |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ | I・II・IV・V |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 6年1組 28名 6年3組 28名 6年2組 28名 6年4組 28名 計 112名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | パラリンピックの競技である「ブラインドサッカー」を、実際に見て体験し、選手の話聞いて、パラリンピックとは障害をもつ人にとって、どんな思いが込められたものなのかを理解し、偏見のない共生社会への関心を深める。 |
| 5 取組内容 | <p>○オリンピック・パラリンピック教育推進事業推進校に決定し、ブラインドサッカー講師 落合啓士 氏を招くことに決定した。</p> <p>○オンラインでの学習形態になることが決まり、市教育委員会の担当者と機器の確認や当日の流れを作成した。</p> <p>○各クラスから進行役を選出し、昼休みに当日の流れを確認し、リハーサルを行った。 ※オンラインのため児童には声の大きさにいつもより気を付けるように指導した。</p> <p>○ブラインドサッカーに関するDVD（ルールや特徴について）を各クラスで視聴し、落合さんに聞きたいことや質問したいことをまとめて意欲を高めた。</p> |
| |   |
| | ○会場の事前準備（接続機器の準備やDVDの動作確認等） |

○2時間目、3時間目で6年生2クラスずつ、落合啓士さんによる特別講演会を開催。



↑準備した質問をする児童



↑落合さんの話を聞きながら真剣にメモをとる子どもたち

落合さんのお話のあと、児童が質問をしたり、代表者がお礼の言葉を述べたりした。終了後、事後アンケートと落合さんへのメッセージを記入した。

ぼくは落合さんのお話を聞いて、目や体などが不自由な人たちに元気づけらる人だと思いました。ぼくもサッカーをしています。が、ブレイクが

した。それに、不自由な人を見てかわいそうなど思わないようにしました。そんなことを思っているながら行動にうつそうと落合さんの話を聞いて思いました。

- ・「途中から目が不自由だってことを忘れていた。」と話す児童が多かった。障害だけに目を向けず、「落合さん」の話を一生懸命聞いていたことがわかる。⇒共生社会への第1歩

○道徳の「義足の聖火ランナー」の学習で、クリス・ムーンの生き方や考え方に触れ、落合さんのことを思い出した。また、他のパラリンピック選手についても紹介した。

○6年生の体育の学習で、サッカーを学習した。

○2クラスに分かれ、体育の時間に体育館で、実際にブラインドサッカーを体験した。新型コロナウイルス感染症について県内に緊急事態宣言が発令されたため、少人数でラン・パス・ドリブルのみを体験した。また、共用の目隠しは使わずに、紅白帽子を



深く被って目隠し代わりとした。何かあったときにすぐに外せる安心感も児童にあったようである。

〔ブラインドサッカーを体験した感想〕

- ・ボールがどこにあるか分からなくなったとき声をかけてもらえると位置が分かって助かった。

- ・声のかけ方も難しかった。どうしたらきちんと伝わるか悩んだ。
- ・落合さんが言ったとおり、自分の立ち位置を見失わないように頭の中でイメージすることが大切だと思った。

